

ラジオの強靱化に向けた連携の推進を目的としたモデル事業の実施結果概要

■ 県域放送メディアと自治体の連携による地域活性化に向けた地域情報発信について、総務省の請負事業として、(株)FM岩手が実証、調査研究を行った。

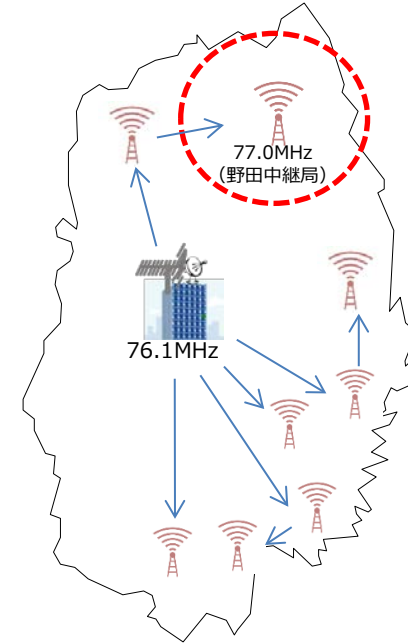
(1) 県域ラジオ放送事業者による「中継局放送」の実証

○ 野田中継局から久慈市・野田村を中心にオリジナル放送を実施した。

【久慈市及び野田村地域】

- ・ 久慈市役所分室のサテライトスタジオ（新設）からの番組を野田中継局から久慈市及び野田村地域のみで放送。
- ・ 地元行事や行政や商店街からのお知らせなど、久慈・野田地域住民向けのコミュニティFM的地域密着コンテンツ番組を放送した。

- ※ 1 災害時や緊急時には久慈市エリアのみでの24時間放送が可能。
- ※ 2 久慈市から東京エフエムを通じ日本全国の系列局に発信可能。



【放送スタッフ体制】

統括（FM岩手スタッフ1名）
パーソナリティ（1名）
アシスタント（1名）
ミキサー兼ディレクター（1名）
週替わりゲスト
→久慈市、野田村の皆様

(2) 地域情報の充実に向けた県域ラジオ放送局と市町村の連携に関する調査研究

○ 検討会を設立し、以下の事項について検討した。

【検討事項】

- ・ 地域情報を効果的に収集し、発信するための手法や体制の確立
- ・ 緊急時に災害や防災情報を円滑に発信する為の手法や体制の確立

【検討会構成メンバー】

座長：大阪大学 渥美 公秀 教授、 WG主査：岩手県立大学 齊藤 義仰 准教授

県域ラジオ：エフエム岩手、エフエム仙台、全国エフエム放送協議会

国・市町村：総務省東北総合通信局、久慈市、野田村、釜石市、岩泉町

関係団体：地元関係団体、メーカー等関係団体

（協力団体）：野田災害放送研究会(※1)、大阪大学(※2)

- ※ 1 野田村の有志住民によるCMF検討組織でFM実証試験局運用の実績あり。
- ※ 2 学生がフィールドワークとして野田災害放送研究会の取組みに参加。

【第1フェーズ】

野田中継局工事

H26年10月スタート
H26年11月完了

【第2フェーズ】

55分番組（全13回）

放送期間（毎週木）
H26年12月～H27年2月

【第3フェーズ】

報告書作成

事業をリサーチ
H27年3月31日まで

(1) 県域ラジオ放送事業者による「中継局放送」の実証 (①)

エリア限定の放送を「中継局放送」として実施

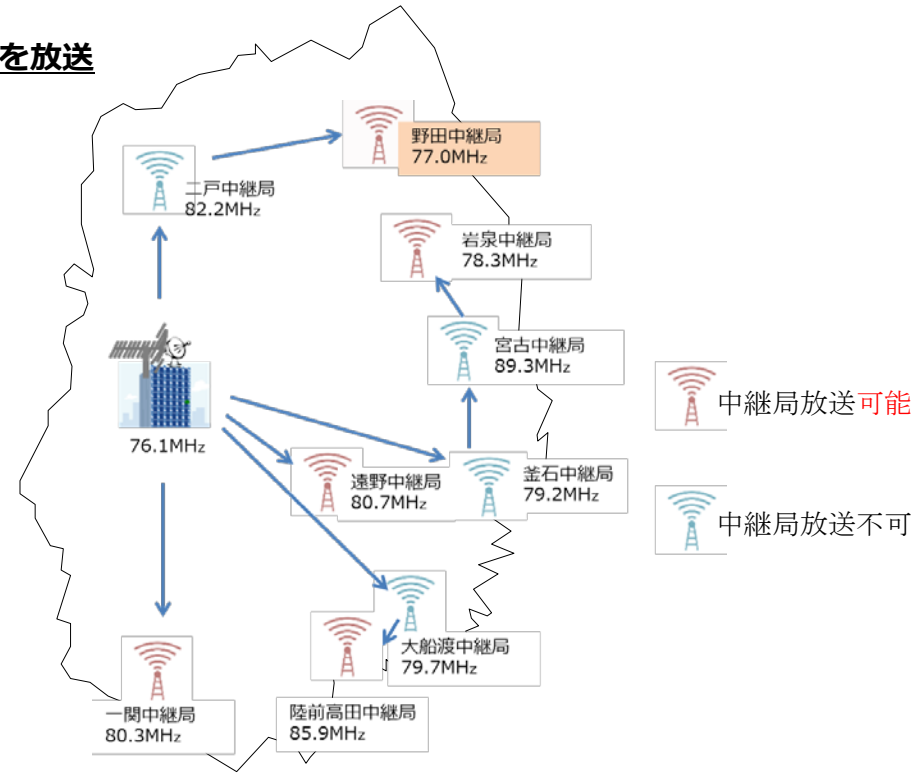
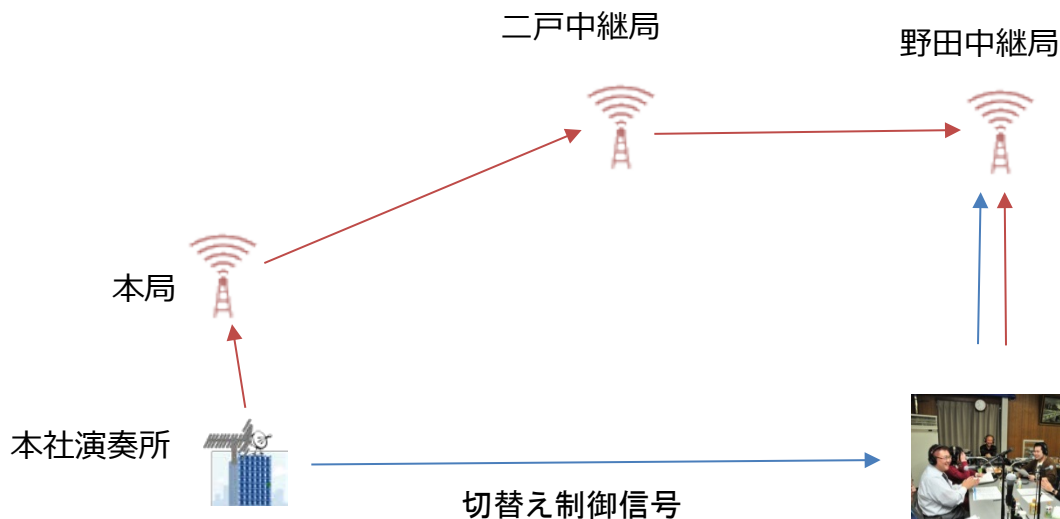
- エフエム岩手の野田中継局から久慈市及び野田村エリアで**オリジナル番組を放送**
- 現行サービスエリアのうち野田中継局以外では全県向け通常番組を放送
- これらの放送が技術的にも問題なく行えることを確認

○「中継局放送」可能地域

エフエム岩手の放送ネットワーク構成上、中継局放送が可能となるのは5中継局で、今回の実証は野田中継局で実施した。

○県域放送と「中継局放送」の切替え機能

野田中継局で、上位局である二戸中継局からの放送波と久慈市役所スタジオからの音声信号と切替えることにより、中継局放送を行った。



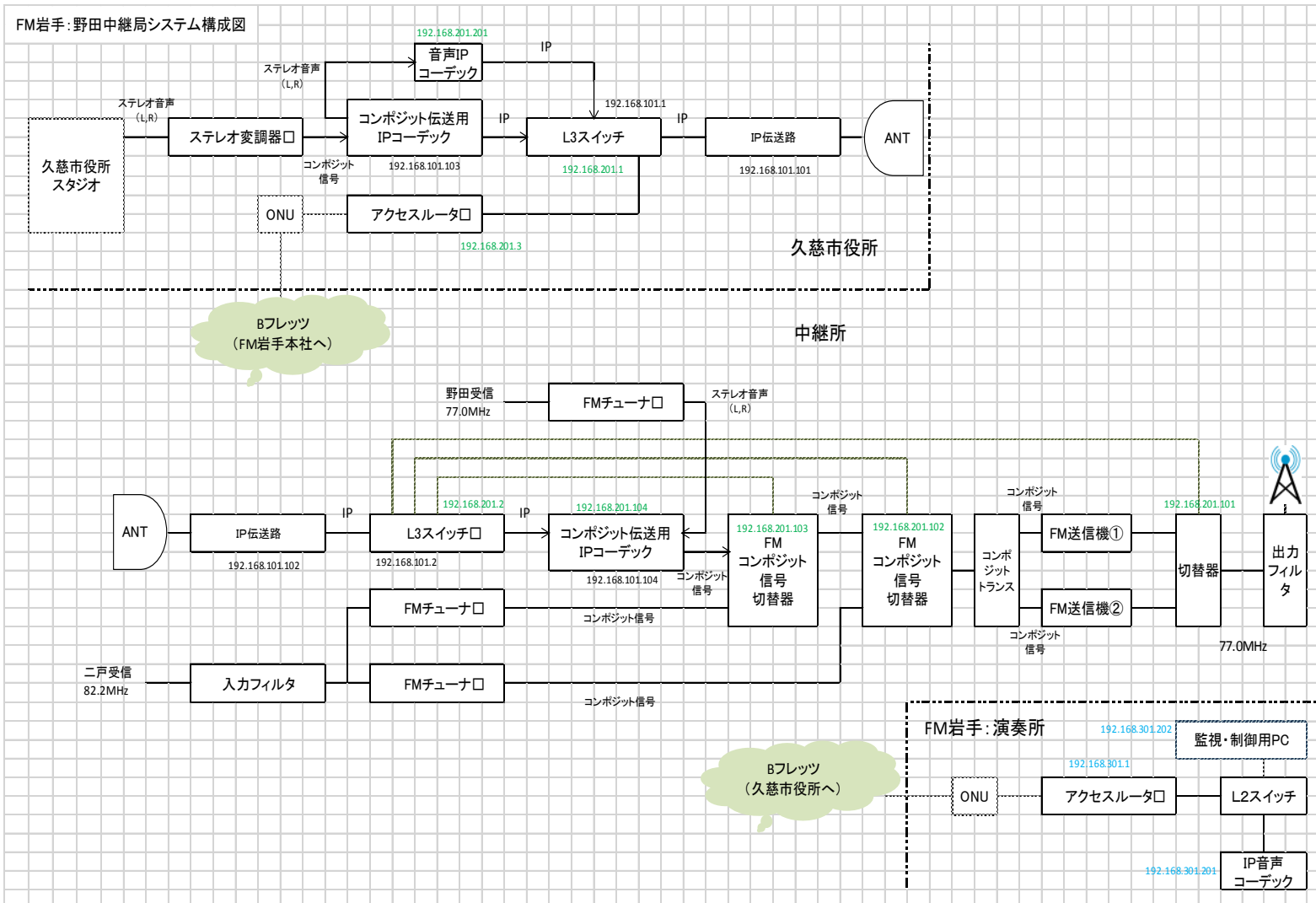
【対象地域以外の全県】
他地域では通常コンテンツを同一放送。

久慈市役所分室スタジオ

(1) 県域ラジオ放送事業者による「中継局放送」の実証 (2)

「中継局放送」機器構成

中継局放送を実施するためには、中継局で受信した放送波をFM放送の基本となる「ステレオコンポジット」信号に落とし込む必要があり、中継放送機を受信機とFM送信機に分離し、受信機から「ステレオコンポジット信号」が取り出せるような機器構成に変更した。そのうえで、中継局放送用の「ステレオコンポジット信号」を久慈市役所に置いたスタジオで生成し、IPコーデックを介して中継局へ伝送。中継局に増設した「コンポジット信号切替器」で中継局放送への切替えを可能にした。



(2) 地域情報の充実に向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携に関する調査研究 (①)

住民アンケートの実施

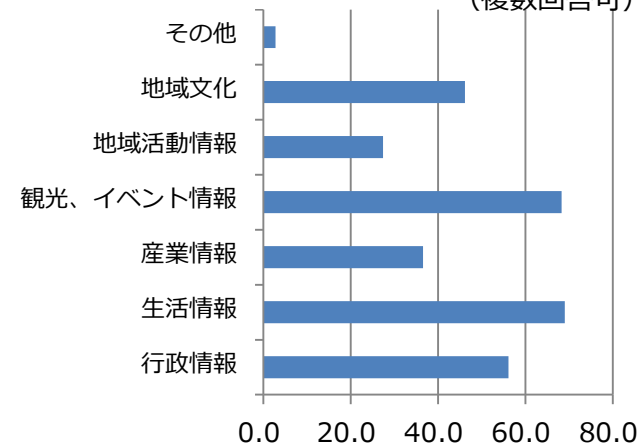
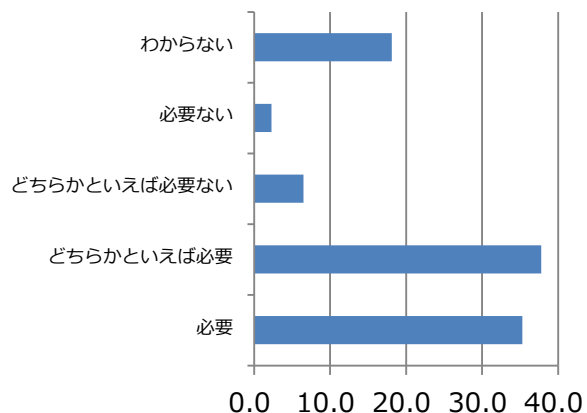
- 中継局放送を行うにあたり、事前に久慈市及び野田村住民に対し全戸アンケートを実施し、放送コンテンツを決定する際の指針とした。

【放送事前アンケート】

- 実施期間 2014年11月15日～11月30日
- 対象数 久慈市15,600世帯 / 野田村1,620世帯
- 回収方法 郵送による回収
- 回答数 有効回答数 1,143

事前アンケート：中継局放送が必要ですか？

事前アンケート：放送でどんな情報を得たいですか
(複数回答可)



中継局放送の実施 (放送スケジュール)

- アンケート結果では、生活情報、観光・イベント情報、行政情報が高いポイントを獲得した。
- 55分の生放送では「人」にフォーカスを当て、5分～25分の番組で生活情報、観光・イベント情報、行政情報を放送した。

日程			放送時間	番組名	日程			放送時間	番組名	日程			放送時間	番組名
12月	4日	木	20:00～20:55	くじなのだ	1月	1日	木	20:00～20:55	くじなのだ	2月	2日	月	10:30～10:45	くじなのだmedium
	5日	金	14:45～14:55	くじなのだmini		4日	日	10:55～11:00	くじなのだmini		5日	木	20:00～20:55	くじなのだ
	11日	木	20:00～20:55	くじなのだ		8日	木	20:00～20:55	くじなのだ		12日	木	20:00～20:55	くじなのだ
	12日	金	11:50～11:55	くじなのだmini		11日	日	10:55～11:00	くじなのだmini		14日	土	19:30～19:55	くじなのだmedium
	18日	木	20:00～20:55	くじなのだ		15日	木	20:00～20:55	くじなのだ		19日	木	20:00～20:55	くじなのだ
	19日	金	11:50～11:55	くじなのだmini		19日	月	10:30～10:45	くじなのだmedium		21日	土	19:30～19:55	くじなのだmedium
	25日	木	20:00～20:55	くじなのだ		22日	木	20:00～20:55	くじなのだ		26日	木	20:00～20:55	くじなのだ
	26日	金	11:50～11:55	くじなのだmini		26日	月	10:30～10:45	くじなのだmedium		28日	土	11:00～11:55	くじなのだ
					29日	木	20:00～20:55	くじなのだ						

(2) 地域情報の充実に向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携に関する調査研究 (②)

地域情報を効果的に収集し、発信するための手法や体制

- 正確かつ迅速に番組を制作するため、エフエム岩手で番組を手がけるアナウンサーと制作ディレクターのほか、久慈市・野田村の行政担当者との連絡及び地域住民・企業とのリレーションを円滑にするため、アシスタントを調査研究対象地域から短期雇用した。
- 地域住民による「情報発信」番組を実現するために、地域住民が、番組の企画・取材、台本作成まで行うとともに、番組運営においても出演者、プレゼンターの役割を担った。また、久慈市及び野田村は番組に関して広報や地域情報収集・提供という形で番組に参画した。



- この体制が、県域放送局がコミュニティ情報を放送する上でのモデルとして有用であることを実証し、県域放送局と地域住民をつなぐコーディネート機能を地域（現場）に設置する必要性を確認した。
- 全国に向けた生放送を3回実施し、中継局放送が全国放送も可能であることを実証した。県域放送が持つ全国放送ネットワークを活用すれば、地方の住民自らが全国に向けて情報発信できるツールを提供することができ、地方創生が目指す、住民自らによる持続可能な地域づくりへの起爆剤となる可能性を秘めている。

緊急時に災害や防災情報を円滑に発信する為の手法や体制

- 久慈市及び野田村と協定を結び、災害時に防災・緊急放送を行える体制を整えた。
- 災害時のマニュアルはエフエム岩手のものを適用し、放送運営の手順は新たに設定した。
- 平成27年2月17日朝発令された「津波注意報」に受けて、エフエム岩手は県域放送として避難の呼びかけ等の放送のほか、久慈市役所内スタジオから「中継局放送」を緊急に実施した。

放送時刻	放送内容
10:01~10:07	津波注意報継続中／水門閉鎖中／久慈市・野田村の各避難所毎の避難者数／野田港・久慈港の津波観測状況／鉄道の運転見合わせ情報／海岸線のバスは運休（ほか） 海岸線には近付かないよう注意呼びかけ／水門外には避難指示、その他には避難準備発令中
10:15~10:20	上記同様
10:23~10:24	津波注意報は解除、海面の変動には引き続き注意することを伝え終了



- 中継局放送が緊急時に臨時災害放送局機能を果たすことを実証できたが、緊急時に適切な情報提供を実現していくためには、「平時にできないことは緊急時にもできない」を考慮し、平時から通常放送を持続して行える体制づくりが必要となる。